

3-4 ホール（圏域：全市域）

3-4-1 施設再編の方針

対象施設
別府市市民ホール（フィルハーモニアホール）、別府市中央公民館・別府市市民会館
施設再編の方針
<ul style="list-style-type: none">▶ 別府市市民ホール（フィルハーモニアホール）及び別府市中央公民館・別府市市民会館は、ともに市の文化活動を担う中核施設であり、建物の長寿命化を図り、維持・存続していきます。▶ 市民ホールは、これから舞台装置の更新等に多額の費用が見込まれ、税金負担割合も高くなっていくことから、受益者負担の見直しや民間活力により収益を確保する方策を検討します。▶ 別府市中央公民館・別府市市民会館は、市の指定有形文化財として施設を維持・更新していきますが、利用率が低い水準にあるため、曜日別・時間別の個人及び特定利用団体の使用状況を収集・分析し、より幅広い市民の利用促進に取り組みます。

3-4-2 現状分析

① 施設の概要

別府市市民ホール（フィルハーモニアホール）は、アルゲリッチ音楽祭のメイン会場となるなど、別府市を代表するホールです。ビーコンプラザは建築当時、県・市を含む第3セクター方式にて建築されましたが、フィルハーモニアホールが市の所有、エントランスホールは県との共有となっています。フィルハーモニアホールは約1200名収容でき、リハーサル室と5つの楽屋を備えています。

別府市中央公民館・別府市市民会館も、市の象徴となる施設で市民の社会教育の場として機能しています。市の有形文化財に指定されています。

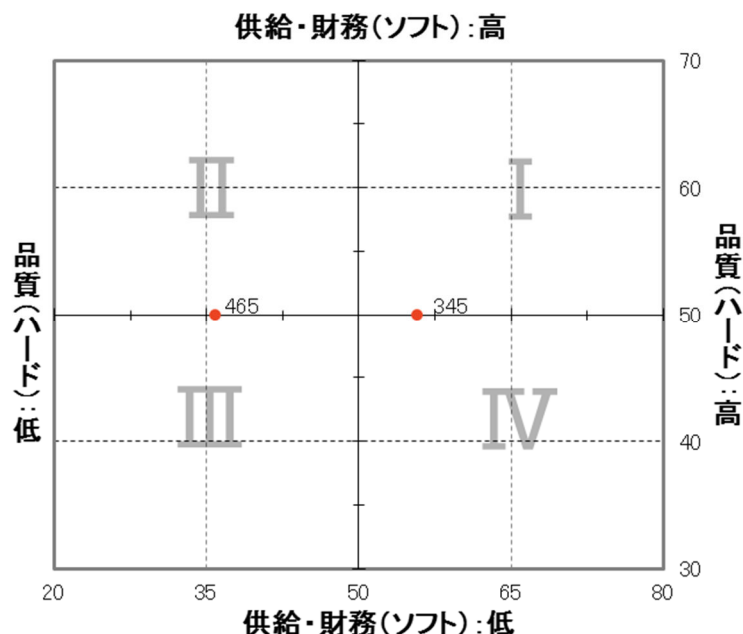
別府市中央公民館・別府市市民会館は、大ホール（557名収容）や講座室（120名収容）のほか、集会室、研修室、料理室などがあります。

② ポートフォリオ分析結果

ホールは、別府市市民ホール（フィルハーモニアホール）、別府市中央公民館・別府市市民会館の2施設でポートフォリオ分析を実施します。

品質状況については、別府市中央公民館・別府市市民会館の築年数が約78年と古くなっているため、偏差値が低くなっています。

供給・財務状況については、メインホールの稼働率（利用可能コマ数に対する利用コマ数の割合）および1日あたり利用者数で算出しています。市民ホールは、メインホールの稼働率が高く、1日あたり利用者数が多いため供給状況の偏差値は高くなっています。一方、別府市中央公民館・別府市市民会館はメインホールの稼働率が低くなっていますが、市負担額が低いため財務状況の偏差値は高くなっています。



台帳番号	施設名称	占有面積 (㎡)	品質				平均偏差値 (ハード)	供給			
			築年数 (年)	偏差値	耐震対応率(%)	偏差値		利用率 (%)	偏差値	1日あたり利用者数 (人/日)	偏差値
345	別府市市民ホール(フィルハーモニアホール)	8,657.1	20.0	56.1	100.0	55.3	55.7	73.7	60.0	319.1	60.0
465	別府市中央公民館・別府市市民会館	3,902.7	78.4	21.4	80.5	50.4	35.9	11.6	40.0	212.6	40.0

財務				平均偏差値 (ソフト)	判定結果
面積あたり市負担額 (千円/㎡)	偏差値	利用者数あたり市負担額 (千円・日/人)	偏差値		
13.3	40.0	368.7	40.0	50.0	I
6.7	60.0	123.5	60.0	50.0	II

図 22 ポートフォリオ分析 (ホール)

③ 老朽化の状況

別府市市民ホールは建物自体に目立った老朽化はみとめられませんが、舞台装置(照明設備等)の劣化が著しく、早急な対応が求められる状況となっています。

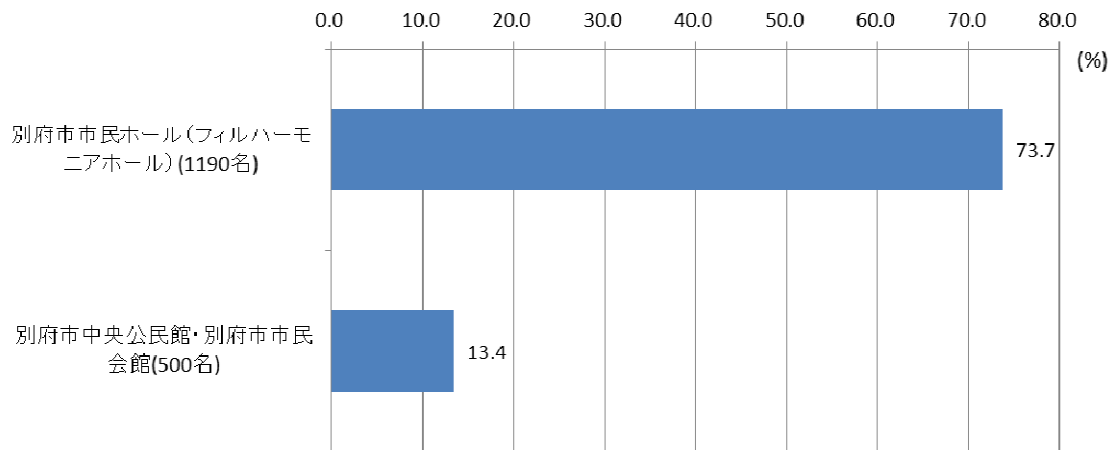
別府市中央公民館・別府市市民会館は、平成 27 年度にリニューアル工事(耐震化)が完成しました。

④ 利用状況・コスト状況

(i)メインホールの利用率比較

別府市市民ホールについては、年間利用者は直近で 12 万人を超え、利用率も 73.7%と、高い水準を維持しているといえます。

別府市中央公民館・別府市市民会館は、社会教育法に基づく施設として利用が限定されています。年間利用者(リニューアル工事前)は約 8 万人ですが、平成 24 年度から平成 26 年度の 3 か年度の実績値の平均値では、改修工事期間中の影響もあり、メインホールの稼働率は 13.4%と低い状況です。



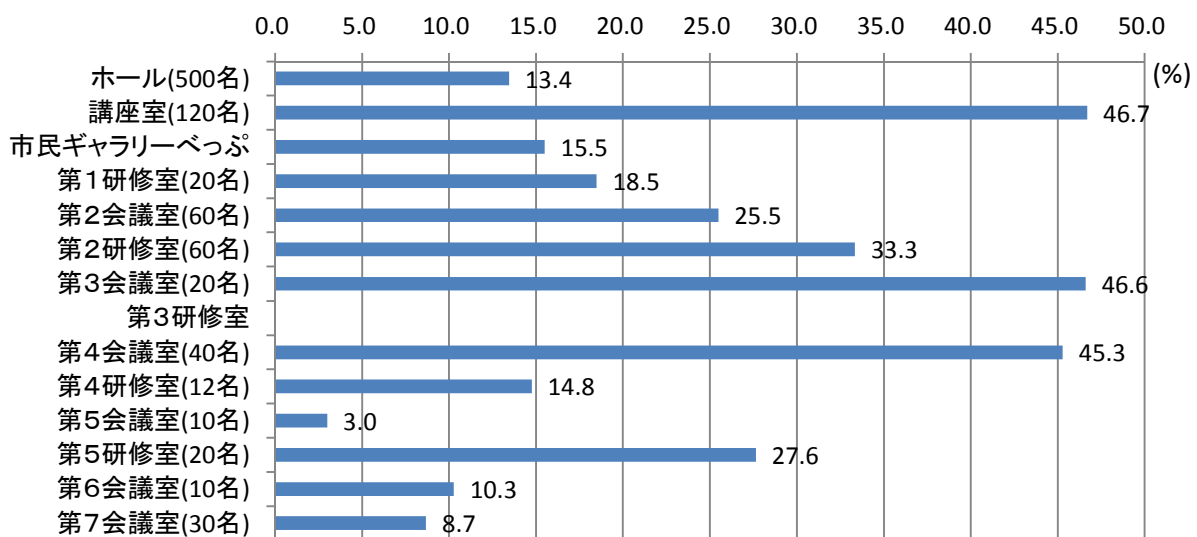
※別府市市民ホール：平成 26 年度実績に基づいて作成

※別府市中央公民館・別府市市民会館：平成 26 年度は改修を実施していたため平成 25 年度実績に基づいて作成

図 23 各施設の利用率（ホール機能を持つ部屋）

(ii)別府市中央公民館・別府市市民会館の部屋ごとの利用率

別府市中央公民館・別府市市民会館は、500 名収容のホールの他、研修室や会議室があり集会施設としての機能も果たしています。部屋ごとの利用率は大きなばらつきがあります。改築が必要となった場合には、利用率の低い研修室や会議室については規模を縮小または廃止し、適切な規模とするための検討が必要です。



※平成 25 年度実績に基づいて作成

※リニューアル工事に伴い研修室・会議室は 11 室から 6 室へ削減されています

図 24 別府市中央公民館・別府市市民会館の部屋ごとの利用率

(iii)運営コスト

別府市中央公民館・別府市市民会館の支出の大半は人件費ですが、支出に対し使用料収入が少なく、税金負担割合は 8 割を超えています。

別府市市民ホールは、利用料金制により指定管理者の収入が年間約 1 億 5 千万円あるため、税金負担割合は平均で 3 割弱となっていますが、市民 1 人当たりの市負担額が大きい状況です。